



首都大学東京×スクラム釜石
釜石ラグビー2019
応援プロジェクト

東京ドーム
「ラグビー釜石アクション」

2019/06/02



東京ドーム「ラグビー釜石アクション」

6月2日（日）、東京ドームにて、釜石ラグビー2019応援プロジェクトの一環として、「巨人VS中日」の試合開始前の時間に、来場者に対して、ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下、RWC2019）釜石開催のPRチラシ等を配付する活動を行いました。「東京ドーム『ラグビー釜石アクション』」と題されたこのイベントは、釜石市ラグビーワールドカップ2019推進本部事務局が主催し、本学が協定を締結している「NPO法人スクラム釜石」が協力して運営しているもので、読売巨人軍の協力を得て、RWC2019釜石開催や釜石市の情報を来場者に広く発信することで、首都圏の釜石ラグビーファンを獲得することを目的として開催されました。

本学からは、釜石ラグビー2019応援プロジェクトの学生4名が参加しました。11時にボランティアが集合し、今回のボランティアユニフォームである釜石大漁旗Tシャツに着替え、全体でのオリエンテーションがあった後、3つのゲートに分かれて、各担当場所へ移動しました。首都大生は、21番ゲートを担当しました。全体で40名ぐらいのボランティアの方がおられましたが、釜石出身で現在は東京在住の方や、釜石のラグビーを応援しておられる方などが多く、首都大生もその方々と一緒にコミュニケーションをとりながら協力して、ラグビーワールドカップや釜石鶴住居復興スタジアムでの開催試合についてのパンフレットやポケットティッシュを配布しました。

最初は、果たして野球ファンの方にラグビーに関心をもっていただけるだろうか、受け取っていただけるかどうかと不安な気持ちもありましたが、首都大生を含めたボランティアの皆さんが笑顔で大きな声で「釜石でのラグビーワールドカップをよろしくお願いします」などと呼びかけながらチラシ等を手渡すと、ほとんどの方が受け取ってくださいました。来場者の中には、釜石市や岩手県出

身の方もおられて、話しかけてくださいました。そのうちのお一人の方は、スタジアムができた場所にあった中学校ご出身の方で、RWC2019を応援はしているが、複雑な気持ちだという胸の内を学生に話してくださいました。

14時のプレイボールまでにはおおむねチラシを配りきることができました。

～参加した学生の感想～

- 活動していて野球を見に来ていたけど釜石に興味を持ってくれたり、ラグビーW杯に興味を示してくれたりする方がたくさんいて、注目度の高まりを感じました。
- 「釜石応援しています！」と笑顔で言ってくれるお客さんや釜石出身のお客さんとの出会いもあり、ラグビーワールドカップのボランティアが釜石でできることがさらに楽しみになりました。これからもより多くの方に釜石でラグビーワールドカップがあるということを伝えていく活動ができれば良いと思いました。
- 釜石に思い入れのある方たちと一緒に活動をして、釜石のことを多くの方に知って貰えたのと同時に自分自身も釜石の熱量を感じられた活動でした！

今回、初めて、東京でできる釜石を応援する活動に参加することができ、来場者からの反応と一緒に活動した方々の釜石愛を感じたことで、学生たちも釜石への想いが高まったようです。いよいよRWC2019の開幕が近づいてきました。本番に向けて、そして、終わった後のことも見据えて、RWCや釜石を盛り上げていくために、これからも“東京でもできること”を考え、取り組んでいきたいと思います。



PRチラシを配付している様子



前日に400号ホームランを記録した
阿部慎之助選手ではなく、
ものまね芸人の「あれ慎之助」さんと
ボランティアの皆さんと記念撮影



釜石シーウェイブスRFCの非公式黙認
マスコットキャラ「なかびー」と「なかりん」と、
読売ジャイアンツのマスコット「ビッキー」